



岩沼市マスコットキャラクター
岩沼係長

きかくてん しょうかい 企画展より民具を紹介!

ぶんかざい てんじちゅう
第42回文化財企画展「この民具何もの?」で展示中の民具をピックアップして紹介します。

はこまくら 箱枕



えどじだいこうはん
江戸時代後半には、そこがカーブして動くタイプに進化。より楽に寝返りができるようになった。



ふとん そと だ つか
布団の外に出して使うのよ。

はこがた げんだい わたし しょう かたち おお こと
箱形につくられた枕です。現代の私たちが使用している枕とは形が大きく異なります。15cm

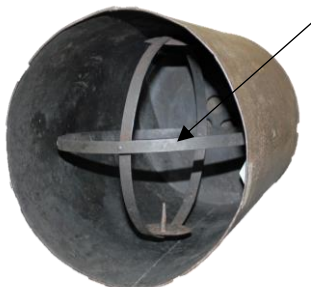
たか ね りゅう
から20cmくらいの高さがあり、寝にくそうですが、それには理由があります。

じだいげき み かた わ おも むかし だんじょ かみ ゆ せいかつ
時代劇を見たことがある方なら分かりますが、昔は男女とも髪を結って生活していました。現代のような低い枕では寝るときに髪型が崩れてしまいます。そこで、このような枕が生まれ、小枕(布の部分)に首を当てて寝ていました。

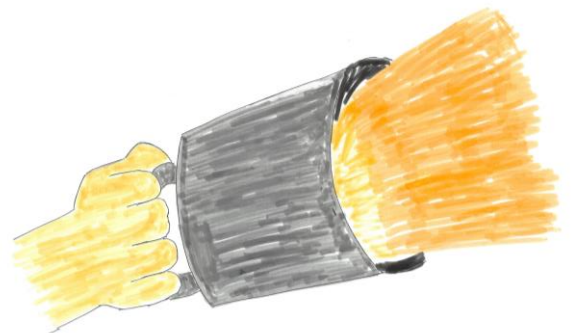
めいじじだい だんせい まげ ゆう ぶんか な にほんがみ ゆう じよせい ねんだい
明治時代になり男性が髷を結う文化は無くなりましたが、日本髪を結う女性によって1930年代

しょうわはじ しょう
(昭和初め)まで使用されていました。

がんとら 龕灯



中の2つの輪がクルクル回転し、ロウソクが上を向くようになっています。



えどじだい はつめい けいたいよう しょうめん て もぬして ごうとう
江戸時代に発明された携帯用ランプです。正面だけを照らし、持ち主を照らさないため強盗
いえ おい さい つか やくにん ごうとう そうさく つか い がんどうちようちん よ
が家に押し入る際に使ったとか、役人が強盗の捜索に使ったとも言われ、「強盗提灯」と呼ばれた
なか てつわ つ かいてん ちゆうおう
たそうです。中に2つの鉄輪が付いています。輪がクルクルと回転し、中央のロウソクが、龕
ほうこう む かなら うえ む つく
灯をどの方向に向けても必ず上を向くように作られています。